認定看護師教育基準カリキュラム

（特定行為研修を組み込んでいない教育課程：A 課程教育機関）

分野：救急看護

平成 25 年 6 月改正
平成 29 年 3 月改正（共通科目のみ）
平成 31 年 4 月改正
令和 3 年 3 月改正（共通科目のみ）

（目的）

1. 救急医療における患者とその家族の QOL 向上に向けて、熟練した看護技術を用いて水準の高い看護実践ができる能力を育成する。

2. 救急看護分野において看護実践を通して他の看護職者に対して指導ができる能力を育成する。

3. 救急看護分野において看護実践を通して他の看護職者に対して相談対応・支援ができる能力を育成する。

（期待される能力）

1. 救急医療を必要とする小児から高齢者、妊産婦に対し、発達段階における特徴を踏まえ迅速かつ的確なフィジカルアセスメントを実践することができる。
2. 救急患者の病態に応じて、問題の優先順位を迅速に判断し、適切な初期対応技術を実践することができる。
3. 刻々と変化する重症救急患者の病態に対応し、効果的かつ安全な全身管理技術を実践することができる。
4. 救急医療を必要とする対象の権利を擁護し、自己決定を尊重した看護を実践できる。
5. 救急医療を必要とする患者と家族の心理・社会的状況をアセスメントして、支援することができる。
6. 災害医療現場において、医療ニーズを迅速に判断し、他職種と連携し実践することができる。
7. より質の高い救急医療を推進するため、救急看護実践の場において、リーダーシップを発揮し、多職種との協働を調整できる。
8. 救急看護実践を通して、救急医療における看護の役割モデルを示し、看護職者への指導・相談対応を行うことができる。

教科目一覧

	教科目名	必修/選択	時間数		
共通科目	1. 医療安全学：医療倫理	必修	15		105（+305）
	2. 医療安全学：医療安全管理	必修	15		
	3. 医療安全学：看護管理	必修	15		
	4. チーム医療論（特定行為実践）	必修	15		
	5. 相談（特定行為実践）	必修	15		
	6. 臨床薬理学：薬理作用	必修	15	小計	
	7. 指導	必修	15	105	
	8. 特定行為実践	選択	15		
	9. 臨床薬理学：薬物動態	選択	15		
	10. 臨床薬理学：薬物治療・管理	選択	30		
	11. 臨床病態生理学	選択	40		
	12. 臨床推論	選択	45		
	13. 臨床推論：医療面接	選択	15		
	14. フィジカルアセスメント：基礎	選択	30		
	15. フィジカルアセスメント：応用	選択	30		
	16. 疾病・臨床病態概論	選択	40		
	17. 疾病・臨床病態概論：状況別	選択	15		
	18. 医療情報論	選択	15	小計	
	19. 対人関係	選択	15	305	
専門基礎科目	1. 救急看護概論	必修	30		270
	2. 救急患者の主要病態と治療	必修	30		
	3. 救急患者と家族の心理・社会的アセスメント	必修	30		
	4. 災害急性期看護	必修	30	小計	
				120	
専門科目	1. 救急患者のフィジカルアセスメントⅠ	必修	30		
	2. 救急患者のフィジカルアセスメントⅡ	必修	30		
	3. 救急看護技術Ⅰ	必修	30		
	4. 救急看護技術Ⅱ	必修	30		
	5. 救急看護技術Ⅲ	必修	15		
	6. 急性症状とケア	必修	15	小計	
				150	
学内演習・臨地実習	学内演習	必修	75		255
	臨地実習	必修	180	小計	
				255	
			総時間数	630（+305）	

■共通科目

教科目	時間数	ねらい	単元 （ゴシック体：特定行為研修 共通科目【学ぶべき事項】に記載の教育内容）	授業形態※1 評価方法※2
医療安全学： 医療倫理 （必修）	15	実践の場において、対象の人権擁護・知る権利・自律性（自己決定）を尊重した看護を提供するため、医療倫理についての理解を深め、実践活動にどのように反映できるか考察する。	**1. 医療倫理の理論** **2. 医療倫理の事例検討**	［授業形態］ 講義及び演習 ［評価方法］ 筆記試験
医療安全学： 医療安全管理 （必修）	15	医療現場における安全管理をめぐる取り組みの経緯、医療事故発生のメカニズムについて理解する。また、実践の場において、看護職者及び他職種との連携を図り、医療事故を防止するための情報収集・分析・対策立案・評価・フィードバックを実践する能力を習得する。	**1. 医療管理の理論** **2. 医療管理の事例検討** **3. 医療安全の法的側面** **4. 医療安全の事例検討・実習**	［授業形態］ 講義、演習及び実習（医療安全）★ ［評価方法］ 筆記試験及び 各種実習の観察評価
医療安全学： 看護管理 （必修）	15	わが国の保健医療制度の仕組みと動向を理解し、社会や地域住民のニーズに対応する医療サービスや看護のあり方を考察する。また、実践の場において質の高い看護サービスを効果的・効率的に提供するための戦略や自身の役割機能の展開などについて検討する。	**1. ケアの質保証の理論** **2. ケアの質保証の事例検討**	［授業形態］ 講義及び演習 ［評価方法］ 筆記試験
チーム医療論 （特定行為実践） （必修）	15	質の高い医療・看護の効果的・効率的な提供に向けたチーム医療の推進について考察する。また、多職種協働の課題及び集団や組織の目標・課題を達成する上で必要なリーダーシップについて理解する。	**1. チーム医療の理論と演習・実習** **2. チーム医療の事例検討** **3. 多職種協働の課題** **※特定行為研修を修了した看護師のチーム医療における役割を含む**	［授業形態］ 講義、演習及び実習（チーム医療）★ ［評価方法］ 筆記試験及び 各種実習の観察評価

★「医療安全学:医療安全管理」と「チーム医療論（特定行為実践）」の実習は、医療安全及びチーム医療の実習について、いずれか一方又は両方を行うものとする。

教科目	時間数	ねらい	単元 （ゴシック体：特定行為研修 共通科目【学ぶべき事項】に記載の教育内容）	授業形態※1 評価方法※2
相談 （特定行為実践） （必修）	15	対象及び組織内外の看護職者や他職種などに対してコンサルテーションを行う際の知識や方法論について習得する。さらに、自らの役割と能力を超える看護が求められる場合には、自ら支援や指導を受けることの重要性について理解する。	**1. コンサルテーションの方法**	［授業形態］ 講義及び演習 ［評価方法］ 筆記試験
臨床薬理学： 薬理作用 （必修）	15	安全確実な薬剤投与を行うため、薬物動態を踏まえた薬物の作用機序と、主要薬物の薬理作用・副作用について理解する。	**1. 主要薬物の薬理作用・副作用の理論と演習** **※年齢による特性（小児/高齢者）を含む**	［授業形態］ 講義及び演習（事例を用いた検討を含む） ［評価方法］ 筆記試験
指導 （必修）	15	組織内外の看護職者に対して、実践を通して知識・技術を共有し、相手の能力を高めるための指導能力を習得する。	1. 生涯教育と生涯学習 2. 成人学習者への教育 3. 教材観（主題観）、対象者観、指導観 4. 学習指導案の作成・発表	［授業形態］ 講義及び演習 ［評価方法］ 筆記試験・レポート、実技試験等による評価のいずれでもよい。
特定行為実践 （選択）	15	特定行為実践のための関係法規を理解する。特定行為の実践に向け、根拠に基づいた手順書を医師、歯科医師等とともに作成し、実践後に再評価するプロセスについて理解する。また、特定行為の実践におけるアセスメント、仮説検証、意思決定、検査・診断過程を理解する。	**特定行為の実践におけるアセスメント、仮説検証、意思決定、検査・診断過程（理論、演習）を学ぶ中で以下の内容を統合して学ぶ** **1. 特定行為実践のための関連法規、意思決定支援を学ぶ** **①特定行為関連法規** **②特定行為実践に関連する患者への説明と意思決定支援の理論と演習** **2. 根拠に基づいて手順書を医師、歯科医師等とともに作成し、実践後、手順書を評価し、見直すプロセスについて学ぶ** **①手順書の位置づけ** **②手順書の作成演習** **③手順書の評価と改良**	［授業形態］ 講義及び演習 ［評価方法］ 筆記試験

教科目	時間数	ねらい	単元 （ゴシック体：特定行為研修 共通科目【学ぶべき事項】に記載の教育内容）	授業形態※1 評価方法※2
臨床薬理学： 薬物動態 （選択）	15	安全確実な薬剤投与を行うため、薬物動態について理解する。	**1. 薬物動態の理論と演習** **※年齢による特性（小児/高齢者）を含む**	[授業形態] 講義及び演習（事例を用いた検討を含む） [評価方法] 筆記試験
臨床薬理学： 薬物治療・管理 （選択）	30	安全確実な薬剤投与・管理を行うため、主要薬物の相互作用、主要薬物の安全管理・処方について理解する。	**1. 主要薬物の相互作用の理論と演習** **2. 主要薬物の安全管理と処方の理論と演習** **※年齢による特性（小児/高齢者）を含む**	[授業形態] 講義及び演習（事例を用いた検討を含む） [評価方法] 筆記試験
臨床病態生理学 （選択）	40	臨床解剖学・臨床病理学・臨床生理学を学び、病態生理学的変化を判断するための知識を習得する。 演習を通し、病態生理学的変化を判断するための知識を深める。	**臨床解剖学、臨床病理学、臨床生理学を学ぶ** **1. 臨床解剖学** **2. 臨床病理学** **3. 臨床生理学**	[授業形態] 講義及び演習 [評価方法] 筆記試験
臨床推論 （選択）	45	症候学、臨床検査・画像検査、臨床疫学を学び、演習を通して臨床推論に必要な知識を習得する。	**臨床診断学、臨床検査学、症候学、臨床疫学を学ぶ** **1. 診療のプロセス** **2. 臨床推論（症候学を含む）の理論と演習** **3. 各種臨床検査の理論と演習** **心電図/血液検査/尿検査/病理検査/微生物学検査/生理機能検査/その他の検査** **4. 画像検査の理論と演習** **放射線の影響/単純エックス線検査/超音波検査/CT・MRI/その他の画像検査** **5. 臨床疫学の理論と演習**	[授業形態] 講義及び演習 [評価方法] 筆記試験

教科目	時間数	ねらい	単元 （ゴシック体：特定行為研修 共通科目【学ぶべき事項】に記載の教育内容）	授業形態※1 評価方法※2
臨床推論： 医療面接 （選択）	15	医療面接の理論と演習・実習を通して、症状の変化に対応し、身体所見・検査所見から病態を把握する臨床推論のプロセスを理解する。	**1. 医療面接の理論と演習・実習**	［授業形態］ 講義、演習及び実習（医療面接） ［評価方法］ 筆記試験及び 各種実習の観察評価
フィジカル アセスメント： 基礎 （選択）	30	身体診察の基本手技を理解し、実践できる。	**身体診察・診断学（演習含む）を学ぶ** **1. 身体診察基本手技の理論と演習・実習** **2. 部位別身体診察手技と所見の理論と演習・実習** **全身状態とバイタルサイン/頭頸部/胸部/腹部/四肢・脊柱/泌尿・生殖器/乳房・リンパ節/神経系**	［授業形態］ 講義、演習及び実習（身体診査手技） ［評価方法］ 筆記試験及び 各種実習の観察評価
フィジカル アセスメント： 応用 （選択）	30	小児・高齢者の特徴をとらえたフィジカルアセスメントを理解し、実践できる。 救急医療・在宅医療等の状況に応じたフィジカルアセスメントを理解し、実践できる。	**1. 身体診察の年齢による変化** **小児/高齢者** **2. 状況に応じた身体診察** **救急医療/在宅医療**	［授業形態］ 講義及び演習 ［評価方法］ 筆記試験
疾病・臨床 病態概論 （選択）	40	主要疾患の病態と臨床診断・治療を理解する。	**主要疾患の臨床診断・治療を学ぶ** **1. 主要疾患の病態と臨床診断・治療の概論** **循環器系/呼吸器系/消化器系/腎泌尿器系/内分泌・代謝系/免疫・膠原病系/血液・リンパ系/神経系/小児科/産婦人科/精神系/運動器系/感覚器系/感染症/**悪性腫瘍/**その他**	［授業形態］ 講義及び演習 ［評価方法］ 筆記試験
疾病・臨床 病態概論： 状況別 （選択）	15	状況に応じた臨床診断・治療（救急医療、在宅医療等）を理解する。	**状況に応じた**（あらゆる年齢・対象を含む）**臨床診断・治療を学ぶ** **1. 救急医療の臨床診断・治療の特性と演習** **2. 在宅医療の臨床診断・治療の特性と演習**	［授業形態］ 講義及び演習 ［評価方法］ 筆記試験

教科目	時間数	ねらい	単元 （ゴシック体：特定行為研修 共通科目【学ぶべき事項】に記載の教育内容）	授業形態※1 評価方法※2
医療情報論 （選択）	15	実践の場において、研究論文等を含む医療情報を効率よく収集・解析・伝達するための方法を習得する。また、情報倫理の観点から、医療情報の適切な取り扱いについて理解する。	1. 医療情報の定義 2. 文献検索によるエビデンスの確認 3. 医療情報の収集と活用 4. 情報倫理 5. 医療情報管理	［授業形態］ 講義及び演習 ［評価方法］ 筆記試験・レポート、実技試験等による評価のいずれでもよい。
対人関係 （選択）	15	実践の場において、対象の理解に必要な基本的知識やスキルを習得する。	1. 対人関係論 2. コミュニケーションスキル 3. 対人関係演習	［授業形態］ 講義及び演習 ［評価方法］ 筆記試験・レポート、実技試験等による評価のいずれでもよい。

※1　「演習」：講義で学んだ内容を基礎として、少人数に分かれて指導者のもとで、議論や発表を行う形式の授業をいうこと。症例検討やペーパーシミュレーション等が含まれること。
「実習」：講義や演習で学んだ内容を基礎として、少人数に分かれて指導者のもとで、主に実技を中心に学ぶ形式の授業をいうこと。実習室（学生同士が患者役になるロールプレイや模型・シミュレーターを用いて行う場）や、医療現場（病棟、外来、在宅等）で行われる。ただし、単に現場にいるだけでは、実習として認められないこと。

※2　全ての共通科目（「指導」「医療情報論」「対人関係」を除く）において筆記試験を行うとともに、実習を行う科目については構造化された評価表を用いた観察評価を行うものとすること。
（厚生労働省「特定行為に係る看護師の研修制度」
https://www.mhlw.go.jp/stf/seisakunitsuite/bunya/0000077077.html ）

■専門基礎科目・専門科目・学内演習・臨地実習

教　科　目		教科目のねらい	単　元	時間数
専門基礎科目	1. 救急看護概論	1) 救急医療の変遷と現状を知り、特徴的な倫理・社会的問題、法的知識、医療経済、チーム医療と医療連携、救急医療政策などについて理解できる。 2) 救急看護の特徴と機能を知り、救急看護認定看護師の役割について理解できる。 3) 救急医療に必要なリスクマネジメントについて理解できる。	1) 救急医療の変遷と現状 2) 救急医療に特徴的な倫理・社会的問題（救急領域の意思決定支援、救急領域の終末期ケア、移植医療、虐待、DV 等への対応を含む） 3) 救急医療・看護に必要な法的知識 4) 救急医療政策と医療経済 **5) 救急医療における専門職の連携と協働** 6) 救急看護の特徴と機能 7) 救急医療における看護機能と救急看護認定看護師の役割 8) 救急医療におけるリスクマネジメント **（感染予防対策、生命維持装置の安全対策）** （暴言暴力への対応を含む）	30
	2. 救急患者の主要病態と治療	1) 救急患者の主要な健康問題の病態生理や生体反応のメカニズムについて理解できる。 2) 救急患者の主要な健康問題の診断、エビデンスに基づく最新の治療について理解できる。 3) 侵襲と生体反応を踏まえ、身体的査定に関連する臨床検査、画像評価、栄養評価の方法を理解できる。	1) 脳卒中の病態と治療 2) 急性呼吸不全の病態と治療 3) 急性循環不全の病態と治療 4) 急性腹症の病態と治療 5) 多臓器障害の病態と治療 6) 外傷の病態と治療 7) 熱傷の病態と治療 8) 急性中毒の病態と治療 9) 急性精神症状の病態と治療 **10) 侵襲と生体反応** **11) 臨床検査、画像評価、栄養評価**	30
	3. 救急患者と家族の心理・社会的アセスメント	1) 救急医療を必要とする患者・家族の心理と社会的状況について、関連する中範囲理論を活用して理解できる。 2) 理論に基づく心理・社会的アセスメントの実際が理解できる。	1) 救急医療を必要とする患者・家族の心理・社会的状況の理解 **(1) ストレスコーピング理論** **(2) 危機理論** (3) 家族理論 (4) 看護に活用できる心理・社会的理論（ニード論、悲嘆の理論、役割理論、カウンセリング理論等） 2) 理論に基づく心理・社会的アセスメントの実際	30
	4. 災害急性期看護	1) 災害医療・看護の概要を理解できる。 2) 災害時の危機管理と医療対応の原則、意思決定プロセスの展開、3Ts の方法を理解できる。 3) 災害急性期の看護の対象や環境、看護実践の特徴を理解できる。 4) 事前対策の重要性を理解し、施設・設備、備蓄の点検や教育・訓練を継続・発展させていく方略を理解できる。	1) 災害と医療 2) 災害時の危機管理と対応 3) 災害急性期の看護の役割 4) 施設の事前対策と教育・訓練	30

※ゴシック体表記は、集中ケアまたは新生児集中ケアとの合同講義が可能な単元

教　科　目		教科目のねらい	単　元	時間数
専門科目	1. 救急患者のフィジカルアセスメントⅠ	生体の構造と機能等をふまえ、急性症状からみたフィジカルアセスメントを理解し、実践できる。	1）生体の構造と機能 2）急性症状（意識障害、外傷、熱傷、急性中毒、けいれん、呼吸困難、動悸、発熱、下痢、嘔吐、急性疼痛等）からみたフィジカルアセスメント 3）救急初療における臨床推論	30
	2. 救急患者のフィジカルアセスメントⅡ	小児・高齢者・妊産婦の特徴を捉えたフィジカルアセスメントを理解し、実践できる。	1）小児のフィジカルアセスメント 2）高齢者のフィジカルアセスメント 3）妊産婦のフィジカルアセスメント	30
	3. 救急看護技術Ⅰ	救急患者のプレホスピタルケアを含む初期対応技術を実践できる。	1）初期対応技術 (1) 救急外来でのトリアージ (2) 救急処置 （ファーストエイドおよび一次・二次救命救急処置を含む）	30
	4. 救急看護技術Ⅱ	重症救急患者に対しエビデンスに基づき効果的かつ安全な管理技術が実践できる。	1）重症救急患者管理技術 (1) 呼吸管理（呼吸理学療法を含む） (2) 循環管理 (3) 中枢神経系管理 (4) 体液管理 (5) 創傷管理 (6) ペインコントロールと鎮静 ※シミュレーション等含む。	30
	5. 救急看護技術Ⅲ	救急患者の退院・帰宅後の生活を見据えた健康管理指導及び急性期のリハビリテーションを実践できる。	1）救急患者への健康管理指導 2）急性期リハビリテーション	15
	6. 急性症状とケア	1）救急患者の急性症状に対し、症状進行予防、症状緩和、また合併症予防に向けた安全かつ有効な救急看護を実践できる。 2）患者と家族の心理・社会的アセスメントを踏まえたメンタルケアを実践できる。	1）急性症状への対応 （意識障害、外傷、熱傷、急性中毒、けいれん、呼吸困難、動悸、発熱、下痢、嘔吐、急性疼痛等） 2）患者と家族へのメンタルケア	15

	教　科　目	教科目のねらい	単　元	時間数
学内演習	学内演習	1)　看護過程に基づいた意図的な目標指向型の思考と客観的な評価・修正を理解し実践できる。 2)　論理的、科学的方法を基本とした証拠（事実）に基づく判断をすることができる。 3)　探究的態度を保ち、系統立った方法で熟慮と洞察を深めることができる。 4)　公平さ、謙虚さ、共感的、知的誠実さ、柔軟性のある思考態度を身につける。 5)　使用する用語の定義や概念を理解した上で的確な表現ができる。 6)　文献等の根拠を基にしながら、科学的・論理的な事例展開を実践できる。 7)　臨床現場に活用できる救急看護技術指導案を作成できる。実際の看護実践をレポートとしてまとめることができる。	1)　救急看護領域における問題解決プロセス (1) クリティカルシンキング (2) 看護過程の思考プロセスに基づく問題解決 2)　事例展開 事例を通して科学的・論理的な看護を展開する。 3) 救急看護技術指導案の作成 4) ケースレポート 臨地実習期間中に経験した事例 1 例について、論文形式にまとめ、発表する。	75
臨地実習	臨地実習	1)　看護過程に沿った救急看護実践を行い、認定看護師として熟練した実践を行うための、アセスメント能力およびケア能力を身につける。 2)　臨床看護師への技術指導を通して、臨床事例の問題解決をすることができる。	1) 以下の看護経験を通して、アセスメント能力およびケア能力を確実なものにする。 (1) 初療看護（3 事例） (2) 救急患者の急性期看護（1 事例） (3) 院内トリアージ（5 事例） (4) 上記（1）、（2）、「プレホスピタルケア」から 2 事例を選択する。 2) 救急看護技術指導（1 回以上）	180